



AMUSE



旭川医科大学外科学講座教育支援機構



AMUSE年報 vol.10

CONTENT

| | |
|-----------------------|----|
| AMUSE 理事挨拶 | 1 |
| 2025年度 AMUSE運営体制 | 10 |
| 2025年度 AMUSE活動報告 | 11 |
| 2025年度 メディア掲載情報 | 14 |
| 初期研修医・専攻医紹介 | 16 |
| 第7回 AMUSE学術外科医表彰プログラム | 17 |
| 外科学講座 合同研究討議会 | 18 |
| 学生と指導医による学会参加について | 20 |
| 法人会員紹介 | 22 |
| 2025年度 AMUSE 新入会員紹介 | 24 |
| 編集後記 | 30 |

AMUSEの原点とさらなる発展を願って

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 代表理事
旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植・消化管外科学分野 教授

横尾 英樹



旭川医科大学外科学講座教育支援機構（AMUSE）の活動に日頃より温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。道北地域は広大で人口密度も低いという特徴をもち、基幹病院と地域医療機関が強固に連携しなければ成り立たない医療圏です。その中で外科医不足は年々深刻化しており、消化器外科だけでなく、血管外科、心臓大血管外科、呼吸器・乳腺外科、小児外科といった各専門領域が相互に協力し、持続可能な外科診療体制を築いていくことが、これまで以上に重要な課題となっています。

全国的にも外科医の減少と高齢化が進み、働き方改革や緊急手術対応の負担など、現場の外科医を取り巻く環境は厳しさを増しています。特に北海道では、広域分散型の医療体制ゆえに限られた外科医が地域の医療を支える状況が続いており、外科医育成のあり方そのものが地域医療の存続に直結する問題となっています。特に消化器外科医の減少に対しては、日本外科学会および日本消化器外科学会も危機感を共有し、さまざまな取り組みを進めています。若手医師に外科の魅力伝えるためのセミナーやハンズオン企画、初期研修医・医学生向けの教育プログラムの充実、専門医制度の整理と可視化などは、その代表例であります。また、働き方改革を見据えたタスク・シフト／シェアの推進、多職種連携による業務負担軽減、女性外科医や子育て世代を支援する委員会活動も継続的に行われており、これらの取り組みは、外科医の裾野を広げると同時に、外科医としてのキャリアを長期的に描きやすくする重要な基盤となっています。

AMUSEは、こうした課題を背景に、旧第一外科・第二外科の垣根を越えて新たな外科教育の基盤をつくるべく設立されました。その理念は、「専門

領域の壁を越えた協働により、地域全体が外科医を育てる土壤をつくる」というものです。血管外科、心臓大血管外科、呼吸器・乳腺外科、小児外科、そして消化器外科という多様な専門領域が対等に連携し、互いの強みを生かしながら研修医・専攻医を育成していく体制は、全国的にも先駆的な取り組みであると自負しております。

外科は高度な専門性と実践力を必要とする領域であり、単一診療科では経験の偏りが生じやすく、若手医師の成長にとって必ずしも最適とは言えません。多領域が協力することで、研修医は多彩な症例に触れ、幅広い視点から外科の魅力と社会的使命を体感することができます。また、各科が研修の場を共有することで、教育手法や指導體制の標準化が進み、若手が安心して学べる環境が整うことも大きな利点です。

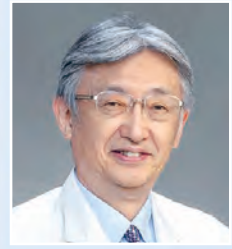
加えて、近年は女性外科医や子育て世代の医師が働きやすい環境整備が必須となっています。多科連携型の教育システムは、柔軟な勤務体制や役割分担を可能にし、多様な働き方を認める実効性の高い仕組みとなり得ます。これは外科医の裾野を広げ、将来の担い手を確保する上でも極めて重要です。

AMUSEはお陰様をもちまして今年で10周年を迎えました。これからも、各外科領域が垣根なく協力し、地域医療の未来を担う外科医を育てるための組織として進化を続けてまいります。専門性は異なっても、患者を中心に考え、地域医療を支えるという目的は共通です。血管外科、心臓大血管外科、呼吸器・乳腺外科、小児外科、そして消化器外科が力を合わせることで、道北の外科医療はさらに強く、持続可能なものとなると確信しております。

今後とも、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

素晴らしい世界に生かされて！

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 専務理事
旭川医科大学 外科学講座 血管・呼吸・腫瘍病態外科学講座 教授



東 信 良

皆さんの中には、すでに外科の素晴らしさを満喫されていていらっしゃる諸兄もいらっしゃるでしょう。そんな皆さんに贈りたい外科医人生41年の想い「何て素晴らしい世界、素晴らしい仕事」について書いてみたいと思います。

私たちが向き合う患者一人一人が夫々異なっていて、かつ、経験を重ねるごとに相対する症例の難易度が上がり、挑戦の連続で、いつまでも新鮮な気持ちでメスを握る、そして、実際に患部に触れ、臓器の中を直接みることで、研究によってはその組織を顕微鏡でみて、染色してみても、さらには、電子顕微鏡がこれまで観たことのない世界にいきなってくれる。どんなアミューズメントパークよりも面白い世界だと思います（アミューズメントパークなんて知らないくせにと思われるかも知れませんが、私は、留学時代、フロリダのディズニーに家族と行って、それはもう“頭の中が真っ白になるほど遊んだ”満喫感を味わいましたが、所詮、人が作ったもの。やはり人体の不思議には適いません）。

手術はまた、終わりのない探検のようなもの。困難症例に逢う度に、挑戦の連続でアドベンチャーワールドです。血管外科の場合、大動脈から足部動脈まで、最近では静脈への治療デバイスも出てきて、open surgeryと血管内治療の二刀流を楽しめる。さらに、血管外科とは全く無縁であったロボットにも挑戦しようと、学会として活動しており、いずれ三刀流になるかもしれません。

そういった面白い世界に加えて、大学にいと教育と研究というさらなる翼があるわけです。教官としての我々は、教育や研究はやって当たり前の仕事。これをどう捉えるかですが、研究ができる環境が煩わしいと捉えるか素晴らしいと捉えるかで人生感は変わります。研究を主導的に行うことができる環境は大学ならではの素晴らしいことと、これまで生きてきて、社会を見渡してそう思います。

研究材料が手に入るという外科のアドバンテージは、昔から認識されており、外科研究が展開されてきました。我々AMUSEも研究発表会を行ったりし

て、研究には一定の成果を上げています。しかしながら、当大学全体の研究力（原著論文数や研究資金獲得）は医学部を有する大学で最下位です。

文科省は、この数年で相当に破格の補助金を大学病院のためにかき集めてきて配ってくれました。彼らの最も言いたいことは、「病院には随分補助したんだから、大学人の本文である教育と研究をしっかりとやってちょ！」ということです。本学が今後最も注力せざるを得ない、国内最下位という立場ですので、おそらく、今後、文科省から名指しでお叱りを受けることになるでしょう。

文科省には、大学を「研究重視型」と「診療重視型」に分けようとする圧力がかったそうです。私も実際に文科省で毎年1回行われる病院長ヒヤリングで実際に聞かれたことがあります。「おたくの大学はどちらを選びますか？」と。私は答えました「研究は、臨床があってこそ、診療で得られる疑問や診療で得られる材料があってこそ可能になるのであって、診療と研究は不可分ではないでしょうか」と。当時の文科省の課長は、そのように大学を区分することをしないように守ってくれたそうです。しかし、当大学のようにあまりに研究実績が少ないと、やがて、研究費が配分されなくなるかもしれません。

今回獲得した大学病院強化推進事業、通称「年度末5億円ジャンボ」のうち1.5億円は全て医療DXにつぎ込みました。皆さんの働き方が今度こそ変わります！外来で患者さんと話している内容が文字起こしされて、要約されて、医師が少し修正すれば、それで外来での医師記載は終了。退院時サマリーもAIが作ってくれる。最適なDPCコード番号も示唆してくれる。皆さんの空いた時間を是非、研究と教育に注力してください。

臨床研究も勿論重要で、教授就任後、私はほぼ臨床研究で生きてきました。しかし、本来は、基礎研究を極めたかった！なので、留学時代は本当に充実していました。人生とはなかなか思うようにならないものです。実施してきた臨床研究では、海外からも注目されて、国際ガイドラインの中心メンバーに

なっていますが、臨床研究特に観察研究やガイドラインは、時のもの。10年後には過去のもの、50年後には忘れ去られることでしょう。臨床研究と基礎研究の双方がバランスよく展開されるよう、教室の長は長期の研究プランを立てるべきであると今更ながら思う次第です。もし、20年の任期を有する教授という立場であれば、基礎研究で見つけたシーズが、実際の未病患者群でどのような役割を果たしているか、10年あるいは20年の長期のコホート研究を展開しつつ、一方で創薬などを展開し、創薬過程で新たなコホートを立上げて、先のコホートとの比較を行うことができるかもしれません。大きな山の山頂を目指すために、複数異なるルートを開拓し、教室員皆でそこを攻める、そういった高みを若い皆さんが一丸となってスクラム組んで取り組んでいただきたいと思います。

教育は、大学教官の最重要な本分。医員も、学生に一番近い存在として、一言一言が学生にはインパクトがあるはず。若手が元気に、夢をもって働いているところに学生は惹かれる。また、教育は高く評価されます。私は、若い頃、手術の腕前にまるで自信がなかった。一方、血管の手術は大好きで、特に再手術で激しい癒着の中で、目指す動脈を見つけてうまく剥離できた時や、ここだと思って動脈切開して、思ったように吻合に適している部位であると確信できたとき、そして何より、若手が思ったように運針しているのを見た時、最高の喜びを感じます。

「好きこそものの上手なれ」とは良く言ったもので、好きであれば、上達する可能性が高いことを意味しているとおり、手術が好きでいつづけることが大事。先輩外科医は若手外科医を、off-the-jobでは

厳しく指導し、on-the-jobでは大げがさせないように見守り（大げがさせると立ち直れなくなる可能性）、好きでいつづけるよう導くことが肝要であると思います。

血管外科学会のdistal bypass workshop立上げに関わらせてもらったことを皮切りに、international distal bypass workshopやdistal bypass competitionなど、surgical trainingに関わることが楽しくて続けてきましたが、そういった教育姿勢に対する海外の評価はびっくりするほど高いです。手術に限らず、術前カンファや症例カンファも重要な教育の場だと思います。10年ほど前、台湾で私の講演を聞いた妻が、あなたの講演には、「あー」だの「えー」だの余計な音が入って聴きづらいわと言われて、ショックを受け、その後、テレビ番組の司会やアナウンサーが話しているのを聞いたりして勉強しました。当教室の医局員はカンファでの症例プレゼンなどで「あの～」「え～と」「うんと～」などがあまりに多い。一度、自分の発言しているのを録音して聞いてみると良い。学会予行ではもちろん、朝の身内のカンファでさえ、上司との真剣勝負の場であると思って、やるべき。日々、そういったところに自分を磨くチャンスがあるわけです。上司としては、そういったところを評価していることも忘れないうで、働く姿も、そしてプレゼンもカッコ良い（できれば歩き方もスマートな）academic surgeonに育って欲しいと願っています！

この原稿をもって、いよいよAMUSEを卒業させていただきます。創設以来、素晴らしく発展し、輝きを放つAMUSEと皆さまに心からのエールを送ります！！

紙谷の7回目の脱皮

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 専務理事
旭川医科大学 外科学講座 心臓大血管外科学分野 教授



紙 谷 寛 之

最近ChatGPTを使用する機会も多くなってきたが、いつも感心するのは「いい着眼点ですね」とか、必ず肯定的な言葉から入ってくることである。AIで自動的に紡ぎだされた言葉であると分かっているにもかかわらず暖かくなるのを感じる。AIのいいところの一つとして、決してこちらを否定しないという事があり、最近ではAIアバターとの疑似恋愛や結婚なども行われているようである。やはり、ヒトは自分を肯定してくれるものに好意を持つ傾向にあるといえる。

しかし、医療現場においては肯定ばかりしてもいられないという現実が存在する。例えば、間違った薬の使い方はしてはいけないし、吻合すべき血管を間違えるのもよろしくない。したがって、指導を行うべき局面は多々あるのであるが、それでもその指導の仕方についてはよくよく考えるべきであろう。上司から見て間違った判断が下されたとしても、当人はそれが正しいと思って行っている。患者に害をなすために意図的に間違った行為を行うものなど存在しない。まずは、どうしてそういう判断になったのかを本人のやる気を肯定しながら傾聴し、そのうえで問題点を指摘し、今後の改善を期待していると当人を肯定しながら話を締めくくるといったサンドイッチ方式が望まれるのではないかと考えている。

間違った判断を下すのは部下に限った話ではなく、私も含めた上司に相当する人物でも起こし得る。上司に意見できる状況を担保するのは心理的安全性の観点から非常に重要なことであるとされてい

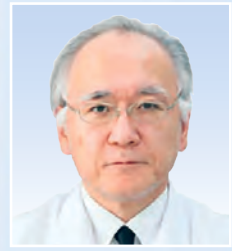
るが、言われた方はカチンと来がちだが、そういう態度を見せられると次からは部下は上司に物を言えなくなってしまう。やはり、他者からの指摘をいったんは肯定し、それを咀嚼したうえで議論し、最後は「言ってくれてありがとう」と肯定の言葉で締めるサンドイッチ法が望まれるところである。

と、偉そうに書いてはいるが、私の態度も決して褒められたものではない。具体例を挙げるとすれば、4月からこどもっくるに転勤になる竹吉が進路に悩んでいた時、今後は研究者になりたいと言ってきたのであるが、「竹吉はバカだから無理ではないか」と言ってしまった。最終的には元気になったからよかったのであるが、そうやってしまった自分を今でも悔いている。また、4月から医局を離れて精神科医としてリポートする大久保に「精神科なんかつまらないだろ」と言ってしまったことも後悔している。「否定から入るんですね」と大久保に言われて頭を殴られたような衝撃を感じるとともに、さすが未来の精神科医だと恐れ入った次第であった。

私が今年55歳になるわけであるが、そんな私の性格が今から変わることができるのかと自問自答する。しかし、完全に変わることは出来なくても、より好ましい方向に修正を加えることは可能ではないかと考えている。すなわち、人生7回目の脱皮である。この年報を手にする皆さんには私が本当に脱皮できるのかを好奇心を持って観察してもらいたいと思っている。

今年度も宜しくお願い致します 近況報告です

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
旭川医科大学 教授 (病院)
旭川医大病院 呼吸器・乳腺外科 科長



北 田 正 博

皆様 日頃のお勤めお疲れさまです。また、いつも大変お世話になっております。

近況をご報告致します。

R 8年度の呼吸器外科、乳腺外科チームは、12年目の安田俊輔（助教）、8年目伊藤茜（産休明けより復帰 大学院2年生 昨年乳腺専門医取得）、7年目吉野流世（大学院3年生 外科専門医取得）の研究組（申し訳ないのですが臨床もたくさんお願いしています）のほか、5年目畑中望美（専攻医）、4年目高橋賢吾（専攻医）の臨床組が加わり日々の診療を行っております。ご迷惑おかけしていることも多々あると思われ、お礼申し上げます。全国学会の発表もそつなくこなし、吉野、畑中は胸部外科学会や外科学会の上級演題にも採用されました。吉野は論文モンスターとして相変わらず量産しておりますが、後輩の論文執筆指導にも積極的に関与し、複数医師がAMUSEアワード上位入賞！を目標に、ひそかに盛り上がっております。専門医も取得対象学年でソツなくとることを目標としております。研修医では、2年目研修医の稲尾匠（前半深川市立病院、後半大学で研修）、田宮未久（札幌東徳洲会で研修）が頑張っており、成田有紗が本年度より札幌厚生病院で初期研修に入る予定です。また、複数の入局者を目標に、若い先生の力を動員して地味に勧誘活動を行っております。7年目中坪正樹は国立がん研究センター呼吸器外科で日々研鑽しており2年後に戻って後輩への指導頂けることを、チーム一同、強く期待しております。各々の医師は呼吸器外科、乳腺外科兼任で仕事をしておりますが、どちらかに重きを置くのかは決めている様で、それに応じた仕事の内容を分担しております。

関連病院としては、旭川厚生病院呼吸器外科の石橋佳が乳腺外科と兼任で頑張っておりロボット手術

の症例も増えているようです。同じく乳腺外科は芝木泰一郎が主任医長として勤務しております。また、帯広北斗病院乳腺外科で氏家菜々美（昨年学位取得済）が常勤します。帯広国立病院の手術応援も今は月1-2回ですが再開しました。乳腺外科外来は、遠軽厚生病院、富良野協会病院、名寄市立病院、旭川がん検診センターで定期的に行っており、4月以降から広域紋別病院、森山病院（予定）で行う予定です。また、在宅診療や肛門外科の研修として忠和クリニックやくにもと病院にお世話になっておりますし、土日の当直専門ですが森山病院、紋別幸栄病院、雄武国保病院なども出張に行っております。まだ、依頼されても人員不足で派遣できてない病院もあるのですが、増員されれば恩返ししていきたいと考えております。遠軽や富良野など消化器外科の先生が勤務されている病院での乳腺外科外来では、勤務環境の面で大変よくしてもらっています。この場をお借りしてお礼申し上げます。

手術件数は例年並みですが、問題は外来の混雑度が増している事です。呼吸器外科を専攻希望する医師にも乳腺外科外来をたくさんお願いしており、心苦しいところです。かかりつけ医への逆紹介を試みているのですが、なかなか乳腺外科の治療の特殊性と患者様に若い人が多いからなのか、うまく進んでいないのが現状ですが、将来の事を考えても、本年はここを重点的に解消すべく、各方面とも連携し尽力したいと思っております。

以上、気の利いた文面でもなく、近況報告に留まりましたが、チーム一丸となって、最新、最高の医療をご提供できます様、日々診療しております。皆様も、ご健康にご留意なされてください。本年も宜しくお願い致します。

環境が人を育て、人が医療を守る —小児外科の2025年—

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事代行
旭川医科大学 外科学講座 小児外科 科長
旭川医科大学病院 小児外科 教授（病院）



宮城 久之

本年度、小児外科は新たな体制で診療・教育・研究活動を進めてまいりました。4月より宮城、石井生医師に加え、秋田大学より当科へ入局した東 紗弥医師、そして札幌厚生病院にて消化器外科の研鑽を積んできた元木恵太医師を迎え4名体制で新年度をスタートいたしました。

学術活動においては、元木医師が研修医の松本医師を伴い、メルボルンで開催された国際学会PAPSにて研究発表を行いました。元木医師にとってはすでに2度目の国際学会発表であり、今後のさらなる活躍が期待される頼もしい存在です。続く5月には石井医師と元木医師が鹿児島で開催された国際学会IPEGにて発表を行いました。

6月には、東京で開催された第62回日本小児外科学会学術集会に全員で参加し、菅野紗希医師が最優秀演題賞を受賞するという大きな成果を収めました。また7月には、東教授主催の第45回日本静脈学会総会にも参加させていただき、他領域の専門家との交流を通じて多くの知見を得る貴重な機会となりました。9月にはHOPESにも参加し、教育面においても充実した活動を展開しております。

10月には大阪で開催されたPSJMに参加し、全国の小児外科医と交流を深めながら多くの学びを得ました。同月より東紗弥医師はJAPAN HEARTの一員としてカンボジアに赴き、小児外科医として現地医療に従事されました。その活動はテレビ番組「情熱大陸」でも取り上げられ、生き生きとした姿が紹介されました。大変誇らしく感じる一方で、我々の診療体制としては一時的に人員が減少し、石井医師と元木医師には大きな負担をかけてしまいました。しかしながら、二人は懸命に診療に取り組み、道北・道東地域の小児医療を守り続けてくれました。困難な状況の中で一層逞しく成長した姿を見て、環境が人を育てることを改めて実感いたしました。

また私事ではありますが、1月には東教授のご推薦を賜り、教授（病院）に就任させていただきました。身の引き締まる思いであり、今後も教室の発展と地域医療への貢献に尽力してまいります。

3月にはAMUSEのご支援をいただき、「第112

回日本小児外科学会北海道地方会」を当科にて開催することができました。特別講演には「Dr.ヤンデル」として広く知られる市原真先生をお招きし他科を含めた参加者を得て盛会のうちに終了いたしました。

2025年度は臨床面においても、1万出生に1例と言われる胆道閉鎖症に対する葛西手術や、腹腔鏡下Soave法、先天性横隔膜ヘルニアに対するECMO下での根治手術などの高難度手術を経験し、チームとしての診療力も着実に向上しております。目谷勇貴先生は札幌厚生病院、久万田優佳先生は遠軽厚生病院、松本陽先生は大学、菅野紗希先生は市立札幌病院でそれぞれ研鑽を積み重ねています。また、須田彩月さん（6年生）がすでに入局を決めてくれています。

2026年度には、ヒューストンで開催される国際学会において2題の演題採択がすでに決定しております。今後も臨床・教育・研究に、全員でさらなる発展と飛躍を目指してまいります。

引き続き、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



図1. 第62回日本小児外科学会学術集会で最優秀賞を受賞した菅野紗希医師



図2. 学会後のひととき



図3. ジャパンハートで活躍する東 紗弥医師

やりがい搾取からの脱却

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事代行
旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植・消化管外科学分野 消化管外科 副科長

長谷川 公 治



これまで毎年、消化管外科の近況についてここに記載してきましたが、昨年11月に講座再編となり、肝胆膵・移植・消化管外科学分野（本年4月からは消化器・移植外科学分野）となったこともあり、今回は趣向を変えて最近思っている事などを書こうと思います。

もうかなり昔ですが、あるテレビ番組で様々な職業の時給を算出する企画をやっており、その中で外科医の時給が5万円だと言っていました。これは、ある手術の診療報酬を手術時間で割って計算した極めて安直なもので、本当にしょうもない番組だと思ったものです。もちろん手術は執刀医一人でするものではありませんし、様々な高額な機械や医療材料を使用しており、最近のロボット支援手術などは利益率の低さが問題となっています。またどんなに長時間手術や緊急呼び出しの多い診療科もそうでない診療科の医師も基本給は一緒です。

多くの医師は、2年間の初期臨床研修が終わるといずれかの専門研修プログラムに登録して基本領域の専門医（AMUSEでは外科専門医）を目指すことになり、外科領域ではその後さらに多くの医師がサブスペシャリティ専門医を目指します。消化器外科

領域にはさらに、内視鏡外科学会技術認定医、食道外科専門医、肝胆膵外科学会高度技能専門医などがあります。また一部の学会には指導医という資格もあります。

しかし長い期間をかけ、多くの研鑽を積み、多額の申請料、認定料を自腹で支払いこれらの資格を取得しても、それは“個人の資格”と呼ばれ、これに対する手当などはありません（一部の医療機関では専門医手当というものがあそうですが）。また最近のロボット支援手術など一部を除き、医師の資格があれば誰でも手術を行うことができ、専門医・指導医と専攻医で手術の技術料に差はありません。それでも専門医や指導医を取得するのは何故か。若手の頃先輩医師に質問した時の回答はいつも同じでした。専攻医が研修する病院（学会の認定施設等）に勤務するために必要だからという理由です。これは手術ができる病院に勤務し続ける（外科医を続ける）ためのプレッシャーであり、インセンティブではありません。

外科医には、手術が上手になりたい、自分の知識と技術で多くの患者を救いたいという基本的欲求があるものだと思います。それに従い努力を継続して

いれば、成長と共に資格は自然と身に付くものかもしれません（実際には計画性も必要ですが）。また、外科医は他科の医師より働く幸福度が高く、その要因は自己成長と達成感にあり、労働時間が増えてもそれが手術によるものであれば幸福度は増すという研究があります。私もそのような達成感が外科の魅力だと思ってきました。

しかし近年ではこのような労働環境は、“自己実現系ワーカホリック”や“やりがい搾取”などとも呼ばれ、“直美”に魅力を感じる若手世代からは敬遠され、消化器外科医の数は減少傾向となり、20年後には現在の半分になるという予測が報道番組でもとりあげられる事態となりました。

人を動かすにはプレッシャーややりがいではなくインセンティブが必要であり、今般、令和8年度診療報酬改定において外科医療確保特別加算が新設されたことが大きな話題となりました。長時間かつ高難度の手術を行う外科医の勤務環境改善と人材確保を目的に、対象手術の所定点数の15%を上乗せし、加算額の30%以上を外科医へ手当として還元する仕組みであり、外科医に対するインセンティブとして画期的な制度となっています。高い施設基準やいくつかの課題も指摘されていますが、やりがい

搾取からの脱却へ向けてようやく医療界も動き出したと言えるのではないのでしょうか。外科医療の未来が明るいことを信じて稿を閉じます。



地域医療におけるAMUSE —遠軽にて思う—

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
JA 北海道厚生連 遠軽厚生病院 院長



稲葉 聡

最近、私自身の役割が終わる日が近づいてきて昔のことをよく思い出します。年を取ったものです。AMUSEと遠軽厚生病院の関りについて考えてみました。

平成8年に矢吹英彦先生が外科主任部長として着任以来、遠軽厚生病院が旧第2外科の関連病院になりました。私自身は平成9年から、矢吹チームに加わり現在に至ります。AMUSEが設立される約20年も前のこととなります。当然のこと当時は旧第1外科と旧第2外科は独自に若手医師を育成していましたし、医局間の連携も今ほどではなかったかと思えます。

当院ではAMUSEが設立される前から、旧第1外

科との連携を深めていました。まずは、平成21年に私と同期である東信良教授と赤坂伸之先生（現釧路孝仁会記念病院）の尽力により循環器外科外来を開設しました。月2回の外来ですが、心臓血管外科分野で当院と旭川医大を繋ぐ大きな懸け橋となりました。平成23年には、旧第1外科からの派遣の形で石橋佳先生（旭川厚生病院で活躍中）が当科で勤務されました。広く外科の基礎を学びたいという本人の希望を叶えたものでしたが、当時としては異例の対応でした。平成25年には、升田晃生先生（礼文で離島医療に奮闘中）が当科で研鑽を積みました。偶然にも遠軽ではAMUSEを先取りしていたのです。

その後、平成28年にAMUSEが設立され若手外科医育成や旧医局間の交流の幅が大きく広がり、旧第1外科系の分野を志す若手が当院にやってきました。同年には栗山直也先生（大学血管外科で躍進中）がAMUSEの交流人事として初めて当科へ来てくれました。平成29年には岩田浩義先生（現在は消化器外科医として研鑽中）が、令和7年には久万田優佳先生（小児外科専攻で精進中）が我が遠軽の外科チームを支えてくれました。

支えてくれた若手外科医の皆が、短い期間でも遠軽で過ごしたことを思い出し、また少しでも外科医としての成長に関わることができたとしたら、これ以上の喜びはありません。

さらに北田正博教授のご協力を得て、平成29年から月3回の乳腺外科外来も開設しています。症例数が増加し、また治療も長期にわたる乳癌の専門的診療を受けられることは地元住民にとって大変大き

なメリットです。

小児の鼠経ヘルニア手術も、宮城久之教授に当院での執刀や指導をお願いしています。子育て中の親御さんにも、安心して手術を受けて頂いています。

遠軽厚生病院は、遠軽紋別地区約6万人の医療を担っています。人口減少が続いていますが、地政学的にも当地の医療の拠点であるべき存在だと思っています。救急医療を一手に担い地域医療を支えるために要となるのは“外科”であるとの強い思いから、外科診療の幅を広げ維持してきました。その中心にAMUSEがあったことは間違いなく、遠軽ファーストの私としては感謝しかありません。

何だか思い出を振り返っただけのようになりましたが、AMUSEが北海道の地域医療を支える組織であり続けてほしいと、遠軽の地から切に願っています。

2025年度 AMUSE運営体制 ※2026年1月現在

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学内 共用研究棟2F

事務局 TEL 0166-66-2424 mailアドレス asahikawa.amuse1@gmail.com
 FAX 0166-66-2425 ホームページ <https://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/amuse/>

代表理事 横尾 英樹
専務理事 東 信良
専務理事 紙谷 寛之
理事 稲葉 聡 (遠軽厚生病院 院長)
理事 新居 利英 (深川市立病院 院長)
理事 北田 正博
理事 眞岸 克明 (名寄市立総合病院 院長)
理事代行 長谷川 公治
理事代行 宮城 久之
監事 後藤 順一 (札幌北楡病院 部長・人工臓器治療センター長)
監事 多田 裕樹 (森山病院 外科・血管外科部長)

上席幹事 庄中 達也・菊地 信介
幹事 今井 浩二・高橋 裕之・石井 生・大原 みずほ・石橋 佳・栗山 直也
 安田 俊輔・安達 雄輝・潮田 亮平
事務局 滝口 亜矢・杉本 知恵子・水牧 真実

●AMUSE法人会員

法人会員施設：38施設 ※入会順掲載

医療法人徳洲会札幌徳洲会病院／天塩町立国民健康保険病院／医療法人仁友会北彩都病院／公益財団法人北海道対がん協会旭川がん検診センター／医療法人社団ふらの西病院／独立行政法人国立病院機構帯広病院／社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院富良野協会病院／JA北海道厚生連札幌厚生病院／医療法人健康会くにもと病院／医療法人徳洲会帯広徳洲会病院／医療法人社団慈成会東旭川病院／医療法人社団shindo旭川リハビリテーション病院／JA北海道厚生連旭川厚生病院／上富良野町立病院／医療法人回生会大西病院／医療法人社団桜会小林病院／社会医療法人元生会森山病院／深川市立病院／JA北海道厚生連遠軽厚生病院／医療法人唐沢病院／医療法人中島病院／独立国立病院機構旭川医療センター／医療法人ひまわり会札幌病院／JA北海道厚生連美深厚生病院／社会医療法人製鉄記念室蘭病院／名寄市立総合病院／八雲総合病院／医療法人社団幾晃会木原循環器科内科医院／留萌市立病院／美瑛町立病院／比布町立びっぷクリニック／社会医療法人孝仁会釧路孝仁会記念病院／医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院／医療法人札幌ハートセンター札幌心臓血管クリニック／社会医療法人禎心会札幌禎心会病院／医療法人徳洲会日高徳洲会病院／市立旭川病院／医療法人社団 友崇会 かむいクリニック

賛助会員施設：4施設 ※入会順掲載

公立芽室病院／医療法人社団真佑会旭川消化器肛門クリニック／医療法人社団翔嶺館音更宏明館病院／市立函館病院

合計：42施設

●AMUSE個人会員

名誉会員 7名
 正会員 172名 (うち2025年度 新入会員17名)
 賛助会員 2名

合計：181名

2025年度 AMUSE活動報告

第41回 Surgcal Grand Round 海道 利実 先生

(聖路加国際病院 消化器・一般外科部長)

2025年5月16日(金) 会場: 臨床第3講義室

「仕事や人生が楽しくなる秘訣」についてご講演いただき、大変参考になる貴重なお話を頂戴いたしました。



2025年度 一般社団法人AMUSE 社員総会・大学院 研究討議会・新人歓迎会

2025年5月18日(日) 会場: アートホテル旭川

AMUSE社員総会と併せて開催した「大学院 研究討議会」並びに「新人歓迎会」。新入会員17名を迎え、和やかな雰囲気での歓迎会となりました。

討議会では活発な発表が行われ、質疑応答も飛び交う有意義な討議会となりました。社員総会では当年度の規程変更修正など今後の活動予定や、前年度の報告を行いました。



心臓大血管外科 ウェットラボ

2025年5月28日(水)

会場: 総合研究棟 1階 小講堂



2025年度 旭川医科大学 外科学講座 合同医局説明会 + レジナビ(初期臨床研修プログラム施設説明会)

2025年6月16日(火) 会場:アートホテル旭川

37名の学生の方々にご参加いただきました。終始和やかな雰囲気の中、学生の皆様と先生方の交流が盛んに行われました。各関係協力施設の皆様にお越しいただき、丁寧に実習施設内容の説明をしていただき、大変有意義な一日となりました。



ワイワイキャリアフェス2025

2025年8月30日(土)

会場:北海道教育大学附属 旭川小学校

昨年度に引き続き、3回目の附属小のイベント参加。心臓マッサージや採血などを体験してもらいました。

腹腔鏡を使用した手技では、鉗子でお菓子をつかめるかチャレンジ!つかめたお菓子はお土産で持ち帰ってもらいました。



2025年度あさひかわキッズタウン

2025年11月15日(土)

会場:旭川地場産業振興センター

昨年に引き続き「あさひかわキッズタウン2025」にて、医師のお仕事体験を担当してまいりました。

4～5年生の児童の皆さんが「旭川医科大学キッズタウン病院」のドクターとなり、たくさんの患者さんの命を救いました!

手術を終えた後は「とっても楽しかった!」「将来はお医者さんになりたい!」とドクター達の笑顔もたくさん見られました。この体験で子供たちが医療の世界に興味を持ち、将来の選択肢の一つとして考えるきっかけになれば嬉しいです。

今後もこのようなイベントを通して社会貢献ができるよう、努めてまいります。



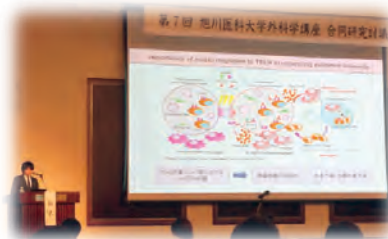
2025年度 第7合同研究討議会・AMUSE大忘年会

2025年12月20日(土) 会場:アートホテル旭川

合同研究討議会では6名の先生に研究成果を存分に発表していただきました。

質疑応答も多くあり、大変活発な討議会となりました。

大忘年会には多くの学生の皆さまにご参加いただき、コロナ禍以降で最大の総勢146名の出席者数となりました。今年のトレンドが盛りだくさんの余興も行われ、盛会のうちに幕を閉じました。



外科学講座 アドバンス実習説明会

2026年2月12日(木)

会場:臨床講義棟 臨床第一講義室

年に一度の外科学講座合同の説明会。各診療科から実習内容や科ごとの雰囲気を紹介まで、アドバンスで学ぶべきことの紹介を行いました。



肝胆膵・移植・消化管外科ハンズオンセミナー

2026年2月5日(木)

会場:臨床研究棟1階 小講堂

テーマを「腸管吻合」として開催された本セミナーにはおよそ20名の学生の皆さんに参加いただきました。



外科学講座 4科合同ハンズオンセミナー

2026年2月16日(月) 会場:総合研究棟1階 小講堂

生の臓器を使って手技体験が出来るこの機会は貴重で大人気！
血管外科・心臓外科・呼吸器乳腺・小児外科の4科での開催で4つのブースに分かれてそれぞれの体験を、診療科それぞれの先生から直接レクチャーを受けながら外科を体験しました。



2025年度 メディア掲載情報

AMUSEは外科医の育成とともに、医療の発展や地域医療への貢献を果たす目的で日々様々な取り組みを行っております。下記にAMUSEが関わる活動の中から2025年3月1日～2026年2月28日までにメディア等で取り上げられたものを紹介します。

新聞・雑誌・Webニュース等

対象期間:2025年3月1日～2026年2月28日

| 日付 | 掲載誌 | 内容(タイトル等) |
|------------|---------------------|---|
| 2025.3.7 | 北海道新聞 | ロボット肝臓手術に力 旭医大病院 保険適用 患者負担軽く |
| 2025.5.25 | 九州医事新報社 | 第45回日本静脈学会総会 |
| 2025.6.23 | 北海道新聞 | 2025.5.25【九州医事新報社】第45回日本静脈学会総会 |
| 2025.6.23 | 北海道医療新聞 | 情報共有と連携の場に |
| 2025.7.19 | 北海道新聞 | エコノミー症候群平時の備えが重要旭川でシンポ |
| 2025.8.1 | 暮らしと件呼応の月刊誌 ケア | 喫煙、生活習慣病、加齢によっておこる慢性疾患下肢閉塞性動脈硬化症(LEAD) |
| 2025.9.3 | 北海道新聞 | 採血体験にドキドキ ～道教育大旭川小で職業イベント～ |
| 2025.11.11 | YAHOO! ニュース | 迫る地方での「胸部外科医ゼロ」時代 医師の働き方改革と医療の質の両立へ日本胸部外科学会が議論 |
| 2025.11.25 | 慈大新聞 | シンポジウム2 心臓大血管救急におけるICTを用いた革新的医療情報連携方法の普及と広域救命救急医療体制確立に資する研究 |
| 2025 | 地方新聞 | 脚の血流悪くなる下肢動脈疾患 歩行中に脚の筋肉痛 |
| 2025 | 地方新聞 | 下肢動脈疾患 歩行中に筋肉痛やだるさ |
| 2025 | 生活を応援するガイドブック 医療と介護 | 下肢閉塞性動脈硬化症(LEAD) |

初期研修医・専攻医紹介

AMUSE会員における「初期研修医・専攻医」は、道内各所で外科専門医取得を目指し、日々研鑽を積んでいます。AMUSE会員の皆様や法人会員の各施設様におかれましては、若手外科医の指導からサポートまで、様々な場面でお世話になっております。

今後とも引き続き、ご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

※2026年2月末時点

| 年次 | 氏名 | 所属科 |
|-------|--------------|--------------|
| 1年目 | 川田 葉寧 | 血管外科 |
| | 野村 悠起 | 心臓外科 |
| | 稲尾 匠 | 呼吸器外科・乳腺外科 |
| | 田宮 未久 | 呼吸器外科・乳腺外科 |
| | 菅野 紗希 | 小児外科 |
| | 石橋 壮涼 | 肝胆膵・移植／消化管外科 |
| | 澤田 栞緒音 | 肝胆膵・移植／消化管外科 |
| 2年目 | 神山 藤吾 | 血管外科 |
| | 中井 智大 | 血管外科 |
| | 日笠 瑛二郎 | 血管外科 |
| | 林 杏香 | 心臓外科 |
| | 宮崎 暉 | 心臓外科 |
| | 松本 陽 | 小児外科 |
| | 佐藤 進之介 | 肝胆膵・移植／消化管外科 |
| | 千葉 周 | 肝胆膵・移植／消化管外科 |
| | 宮原 健人 | 肝胆膵・移植／消化管外科 |
| 西田 さと | 肝胆膵・移植／消化管外科 | |
| 3年目 | 露井 出海 | 血管外科 |
| | 瀧澤 京慶 | 血管外科 |
| | 赤松 秀信 | 心臓外科 |
| | 李 廷娥 | 心臓外科 |
| | 井上 陽斗 | 心臓外科 |
| | 河原林 佑 | 心臓外科 |
| | 堀元 美里 | 心臓外科 |
| | 高橋 賢吾 | 呼吸器外科・乳腺外科 |
| | 瀧澤 朋紀 | 肝胆膵・移植外科 |
| 4年目 | 橋本 侑樹 | 血管外科 |
| | 眞岸 孝行 | 血管外科 |
| | 香川 倅二 | 心臓外科 |
| | 清水 要 | 心臓外科 |
| | 福田 はな | 心臓外科 |
| | 丸岡 純 | 心臓外科 |
| | 畑中 望美 | 呼吸器外科・乳腺外科 |
| | 久万田 優佳 | 小児外科 |
| | 榎本 克朗 | 消化管外科 |
| | 渡部 大成 | 肝胆膵・移植／消化管外科 |
| 5年目 | 田丸 祐也 | 血管外科 |
| | 宮谷 和樹 | 心臓外科 |
| | 元木 惠太 | 小児外科 |
| | 高島 宏規 | 肝胆膵・移植／消化管外科 |
| | 牧野 開 | 肝胆膵・移植／消化管外科 |

第7回 AMUSE学術外科医表彰プログラム

2025年度もAMUSE会員は切磋琢磨しながら学術活動を続けています。潮田亮平先生が2連覇の偉業を成し遂げられ、殿堂入りとなりました。敢闘賞（初期研修医部門）は松本陽先生と西田さと先生が獲得しました。また、論文の功績を称え、特別賞が吉野流世先生に贈られました。

第7回 AMUSE学術外科医表彰プログラム 実績一覧

| 順位 | 氏名 | 得点 | 所属 | ※2025年9月末時点 | 大学卒業年 |
|-----|--------|-----|----------|-------------|-------|
| 1 | 潮田 亮平 | 702 | 旭川医科大学 | 心臓外科 | 2017 |
| 2 | 吉野 流世 | 613 | 旭川医科大学 | 呼吸器外科・乳腺外科 | 2020 |
| 3 | 安達 雄輝 | 612 | 遠軽厚生病院 | 外科 | 2016 |
| 4 | 鎌田 啓輔 | 328 | 旭川医科大学 | 血管外科 | 2016 |
| 5 | 広藤 愛菜 | 290 | 旭川医科大学 | 心臓外科 | 2017 |
| 6 | 水上 奨一朗 | 288 | 旭川医科大学 | 肝胆膵・移植外科 | 2016 |
| 7 | 伊佐 秀貴 | 246 | 名寄市立病院 | 心臓血管外科 | 2019 |
| 8 | 瀬戸川 友紀 | 215 | 旭川医科大学 | 心臓外科 | 2018 |
| 9 | 成田 昌彦 | 209 | 製鉄記念室蘭病院 | 心臓血管外科 | 2018 |
| 10 | 白倉 健太郎 | 200 | 旭川医科大学 | 心臓外科 | 2020 |
| 敢闘賞 | 松本 陽 | 132 | 旭川医科大学 | 卒後臨床研修 | 2024 |
| 敢闘賞 | 西田 さと | 120 | 札幌東徳洲会病院 | 卒後臨床研修 | 2024 |
| 特別賞 | 吉野 流世 | 613 | 旭川医科大学 | 呼吸器外科・乳腺外科 | 2020 |

受賞あいさつ

旭川医科大学 心臓外科 **潮田 亮平**

このたびは、昨年に引き続き最優秀賞という栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。紙谷教授をはじめ諸先生方のご指導、日頃より支えてくださる医局員・関連施設の皆様、ならびに関係各位のご支援に、心より御礼申し上げます。

昨年度の受賞を励みに、「一発屋」で終わらせないために、継続的に成果を残すことを目標としてこの一年取り組んでまいりました。菊地先生に続き、2年連続で受賞できたことで、アカデミックアワー

ドの殿堂入りも果たすことができ、感無量です。

本年4月からは大学院にて基礎研究を開始し、生体吸収型マグネシウムステントグラフトの開発、大動脈解離の遺伝学領域に関する調査を進めております。臨床で得た疑問を研究として深め、来年度はその成果を論文として発信できるよう一層努力してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

旭川医科大学 大学院 研究討議会

●日時:2025年5月18日(日)11:00～ ●会場:アートホテル旭川

2023年度より社員総会後に行われている「旭川医科大学 大学院 研究討議会」。今回は2名の先生に発表していただきました。

PROGRAM

座長 高橋裕之 先生 (肝胆膵・移植外科)

1. 「腹部大動脈瘤とエクソソーム研究」

演者 高橋一輝 先生 (血管外科)

2. 「希少がんおよび肝細胞癌に対する
個別化医療の実現に向けた基盤研究

:細胞株樹立とプロテオーム解析の活用」

演者 安達雄輝 先生 (肝胆膵・移植外科)

第7回 旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会

●日時:2025年12月20日(土) 15:30～17:00 ●会場:アートホテル旭川

2025年度の開催で第7回を迎えました「旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会」。質疑応答も多く飛び交い、大変有意義な討議会となりました。

PROGRAM

開 会

1. 開会挨拶

代表理事 横尾英樹 教授 (肝胆膵・移植外科)

2. 講座研究発表

座長 栗山 直也 先生（血管外科）
大原みずほ 先生（消化管外科）

- 水上奨一朗 先生（肝胆膵・移植外科）
演題名：大腸癌肝転移におけるHGP・腫瘍周囲免疫・ドライバー遺伝子の統合解析と予後層別化
- 武田智宏 先生（消化管外科）
演題名：Impact of TP53, KRAS, and APC Mutations on Neoadjuvant Chemotherapy Outcomes in Locally Advanced Rectal Cancer
- 鎌田啓輔 先生（血管外科）
演題名：空間的トランスクリプトーム解析による静脈グラフト狭窄の病態解明
- 宮本寛之 先生（心臓外科）
演題名：生体吸収性ナノファイバー素材による自家血管化する小口径人工血管の開発
- 吉野流世 先生（呼吸器／乳腺外科）
演題名：肺がん所属リンパ節（TDLN）における単球由来樹状細胞（moDC）による免疫療法効果の予測可能性
- 元木恵太 先生（小児外科）
演題名：HuC/D免疫染色を用いたヒルシュスプルング病診断の有用性に関する多施設共同研究

3. 閉会挨拶

専務理事 東 信良 教授（血管外科）

閉 会

学生と指導医による学会参加について

学生と指導医による学会参加体験記

旭川医科大学外科学講座 心臓大血管外科学分野／集中治療部 **國岡信吾**

AMUSE会員の皆様には、日頃より臨床・研究の両面において多大なるご指導を賜り、深く感謝申し上げます。私は2024年、2025年とHOPESにおける学生発表の指導を担当させていただきました。

2024年の林杏香先生に続き、2025年には末岡玲先生が優秀賞を受賞され、関係各位のご指導に心より御礼申し上げます。末岡先生が担当された症例は、極めて稀な上行大動脈内血栓症に対する手術症例であり、複雑な手術内容を的確に理解するため、手術ビデオや記録、画像所見を丁寧に検証されました。さらに自分で大血管模型を作成し、三次元的な理解に基づいた図を作成されるなど、積極的な取り組みが印象的でした。

加えて、学生のうちに英語論文化し、Surgical

Case Reportsにacceptされております。

今後のさらなるご活躍を心より祈念いたします。



HOPES2025 学会発表を経験して

旭川医科大学医学部医学科6年 **末岡玲**

今回が初めての学会発表であり、当初は右も左も分からない手探りの状態からのスタートでした。何から取り組めばよいか迷う中で、まずはスライド作成に拘ってみようと考え、聞き手に分かりやすく伝わるデザインを模索しながら、様々な資料や助言を参考に工夫を重ねました。試行錯誤を重ねていくうちに少しずつ発表の全体像や進め方が見えてきたように思います。

結果として当日の朝まで修正を繰り返すことになりましたが、当時の自分なりにできる限りを尽くした発表ができたのではないかと感じています。

発表において注意すべき点や重要になる知識は自

分一人では気が付けない部分も多く、指導して下さった先生方からの助言によって形にすることができました。

また今回の経験を通して、これまで何気なく聞いていた他の先生方の発表についても、スライドの構成や伝え方といった点に目が向くようになり、自分の中で新たな視点が生まれたように感じています。わからない状況でもまずは手掛かりを探し取り組んでみる大切さを改めて実感した経験でした。

このような貴重な機会を与えてくださり、ご指導くださいました先生方に心より感謝申し上げます。

HOPES2025学生セッションを通じて

外科学講座 肝胆膵・移植・消化管外科学分野 消化管外科 岩田浩義

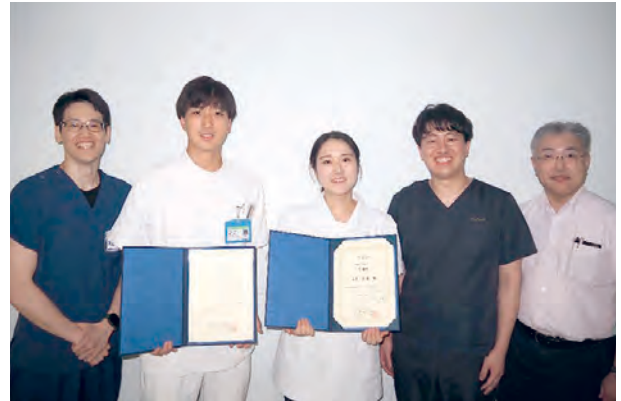
AMUSEの会員の皆様には日頃より多くの御支援を頂き、深く御礼申し上げます。この度、HOPES2025学生セッション1（消化器・小児）において、医学科5年生の川原美優さんにご発表頂き、その指導を担当させて頂きました。

「クロスフォローアップ中にStageⅢ大腸癌を発症した若年古典型家族性大腸腺腫症非密生型の1例」という演題名で、近年トピックとなっている遺伝性大腸癌の1つである家族性大腸腺腫症について外科的なことに限らず、幅広く学べる機会になったと思います。

これまで私も指導される立場としての研究発表しか経験がなく、今回初めて指導する立場を試行錯誤しながら経験させて頂きました。毎回多くの準備をして打ち合わせに臨んでくる川原さんと一緒に学ば

せて頂きました。

残念ながら私の力不足により優秀演題賞にも届きませんでしたが、川原さんにとって今回の経験が外科医になるきっかけになることを願っています。



HOPES2025に参加して

旭川医科大学医学部医学科5年 川原美優

消化器外科の実習の際に先生からお声がけをいただき、HOPESの学生セッションで家族性大腸腺腫症について発表させていただくことになりました。

指導医の先生にもご助言をいただきながら発表準備を進める中で、一つの疾患について複数の文献を調べ、臨床の視点から理解を深めながら、内容を整理することの難しさを実感しました。

学会当日は会場の雰囲気にも圧倒されるとともに、他の学生や先生方の発表を拝見し、多くの刺激を受

けました。学会での発表は初めてで緊張しましたが、大変貴重で有意義な経験となりました。

発表を終えて、十分に伝えきれなかった点もあったと反省が残りましたが、多くの学びと、最後までやり遂げられた達成感を得ることができました。

今回の学会参加を通じて消化器外科への関心がより一層深まり、このような機会をくださった指導医の先生方には感謝申し上げます。

法人会員紹介

社会医療法人北楡会 札幌北楡病院

外科部長・人工臓器治療センター長 後藤 順一

札幌北楡病院外科は札幌市白石区にある281床の急性期病院です。札幌環状線通りに面し、かつ地下鉄白石駅から徒歩5分の好立地にあります。増築を繰り返し大きくなってきており、現在は東棟、西棟、南棟の3棟に分かれそれぞれ空中で連結するという迷路のような病院です（実際患者さんは迷子になることがあります）。病院全体の特色としては腎不全、透析、また血液疾患を得意とする病院です。開設当初から外科医が主導の病院で現在も理事長、院長が外科医であり、外科が病院全体を全般的にみているのも特徴です。外科医は理事長を含め12名在籍し、全体が3チーム（血管外科チーム、消化器外科チーム、肛門外科チーム）にわかれ診療に当たっています。各チームの仲は良く、友好的な雰囲気です。AMUSEからは3名（旧第一外科：熱田、旧第二外科：後藤、北）の派遣があります。

血管外科チームはAUMSE所属の熱田先生を筆頭に旭川医大第一内科出身医師などで構成されています。ASO（閉塞性動脈硬化症）手術は年々増加傾向で、札幌市立病院や札幌厚生病院からも患者さんの紹介を受けています。また当院の特徴として透析患者を含めた腎不全患者が多く、様々な並存症を抱えた患者さんに対して治療に当たっています。バスキュラアクセス（以下VA）手術は症例数が増加しており、2025年は開院以来初となる年間1000例を越えました。これは道内では類をみず、全国的にみてもtop levelです。当院では開院時からVAに対する治療を行ってきておりその実績が認められたおかげか、2027年には日本透析アクセス医学会学術集会を札幌で主催する予定です。全国規模学会を市中病院が主催することは異例であり、皆で開催に向けて取り組んでいます。

消化器外科チームは実働5名で、AMUSEからは後藤と北が在籍しています。消化器外科手術を幅広く行い、若い人ほど手術を充てる方針です。内視鏡外科に関しては内視鏡外科学会技術認定医が4名（服部、後藤、佐藤、北）在籍しています。下に来る研修の先生は、すべての手術を技術認定医の指導の下に行う体制となっています。そのため術中の指導はか

なり適切かつシビアであり、おかげで皆着実にlevel upしていきます。若い先生大歓迎です。ロボット支援手術は以前から行っており、2023年にはダビンチXに更新しました。右側結腸に対しても開始し、2025年は北先生が術者のcertificateを取得し、術者デビューしました。今後も症例を適切に選定しながらダビンチ手術も広げていきたいと思っています。若い先生も努力次第ではダビンチ手術術者も可能です。

当院では腎不全、特に透析に関しては外科が中心となり診療しています。人工臓器治療センター（AOC）で透析、アフエレーシス治療を行っています。近隣からの紹介も多く、透析医療に関しては全国top levelです。おかげで当院での研修により透析／腎不全治療に困らないだけでなく、透析専門医を含め透析関係の資格取得も可能です。血管外科や消化器外科に限らない一生困らないようなキャリアアップを図れるものと思います。以上当院ではgeneral diseaseから特殊疾患まで様々な治療を学べます。一緒にやりたい方は大歓迎です。



法人会員紹介

釧路孝仁会記念病院

副院長・心臓血管外科部長 赤坂 伸之(旭医大 1985卒)

●AMUSE唯一の釧根地区拠点 脳・循環器専門病院

釧路孝仁会記念病院は、釧路市の北側に位置して高速道路のインターに直結し、旭川医大と同じくドクターヘリの格納庫を有します。その位置と専門性から、釧根地区における脳・心臓血管救急の基幹病院で、年間2000例以上の循環器急性患者（救急車）を受け入れています。釧根地域は十勝との境界から知床、根室両半島に至り、南関東の1都3県をも上回る面積ですが、人口は旭川1市をも下回る27-8万人です。外科は心臓血管のみですが、旭川医大の心臓大血管外科、血管外科の両講座から医師の派遣により、総勢5人で釧根地区の心臓、大血管、末梢血管の救急、慢性疾患を診療、手術を行っています。

地方では珍しい専門病院で、そのフットワークの軽さを生かした救急治療及び専門性を生かした全国レベルの高度医療を提供するのが基本的な理念です。また、リハビリや、療養型病院、介護施設など幅広い関連施設を持っているのも大きな特徴です。

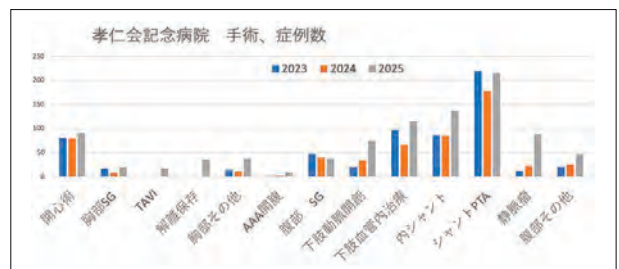


AMUSEからの派遣は、平成28年に心臓大血管外科、木村（25期）らを中心に開始され、地域の心臓大血管外科治療を進め、令和6年10月から赤坂（7期、筆者）が、製鉄記念室蘭病院から当地に赴任し現体制となっています。令和7年度のメンバーは心臓大血管外科から、小林（37期、専門医）、香川（44期）、血管外科から竜川（37期、専門医）、横山（42期）の各2名が派遣され令和8年度には2名の入れ替わりを予定しています。

令和7年の手術数は901例で、内訳は別表の通りですが、釧路初の血管外科専門医の赴任もあり、血管外科症例数は下肢の末梢バイパスを始めとする

OPEN Surgeryや血管内治療が飛躍的に増加しています。同時にシャント関連の手術が激増して、地域における唯一のヴァスキュラーアクセスセンターとして地域の透析医療を支えています。心臓関連では130例の心臓大血管手術を行い、特に令和7年8月から、病院の及び地域の念願であったTAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）を開始して計17例を施行しております。当該治療を施行するためには高額なハイブリッド手術室の整備や、心臓血管外科専門医3名以上などの人的制限、循環器に関わる一定数以上の症例数などに厳しい制限があったため、今まで実現していませんでしたが、昨年夏に認定施設を取得し、施行可能となりました。従来までは手術適応はあっても対象が高齢者中心であるために、札幌などでの診療に対しては、距離、時間、金銭面など、さまざまな負担から治療を断念される方も少なくなく、地域にとって大変重要な役割を果たすことができています。

病院としては、今後も釧根地区における、脳、循環器の救急、高度医療を担う必要があり、当科もその中心的役割を果たしていきます。



香川／小林／赤坂／竜川／横山

2025年度 AMUSE 新入会員紹介

AMUSEはこの1年間で下記の18名の新入会員を迎え入れました。みなさんが各所で活躍しています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

| 氏名 | 所属科 | 医師免取得年 | 氏名 | 所属科 | 医師免取得年 |
|-------|------------|--------|-------|--------------|--------|
| 川田 栞寧 | 血管外科 | 2025 | 田宮 未久 | 呼吸器外科・乳腺外科 | 2025 |
| 角浜 孝行 | 心臓外科 | 1990 | 東 紗弥 | 小児外科 | 2013 |
| 河原林 佑 | 心臓外科 | 2023 | 菅野 紗希 | 小児外科 | 2025 |
| 赤松 秀信 | 心臓外科 | 2023 | 星 智和 | 肝胆膵・移植／消化管外科 | 1989 |
| 宮崎 暉 | 心臓外科 | 2024 | 瀧澤 朋紀 | 肝胆膵・移植／消化管外科 | 2023 |
| 野村 悠起 | 心臓外科 | 2025 | 千葉 周 | 肝胆膵・移植／消化管外科 | 2024 |
| 藤井裕美子 | 心臓外科 | — | 西田 さと | 肝胆膵・移植／消化管外科 | 2024 |
| 高橋 賢吾 | 呼吸器外科・乳腺外科 | 2023 | 石橋 壮涼 | 肝胆膵・移植／消化管外科 | 2025 |
| 稲尾 匠 | 呼吸器外科・乳腺外科 | 2025 | 澤田栞緒音 | 肝胆膵・移植／消化管外科 | 2025 |

富良野協会病院 星 智和

2025年4月よりAMUSEに入会させていただきました星智和です。高齢での異例の新入会員ですが、宜しくお願ひ致します。

旭川医科大学の11期（平成元年卒）で、旧第2外科および関連施設で勤務をして、その後に医局から離れて外科医としての勤務もしてきました。横尾英樹教授および消化器外科教室の先生方から声をかけていただき、富良野協会病院に勤務することになり、AMUSEへの入会をさせていただくことになりました。

既に消化器外科の最新治療には対応が難しいかとも思う状況ですが、外科総論の周術期感染対策や栄養管理は専門の分野として業務を続けてきたので、その面について、また地域医療への対応については一人の外科医としてまだ頑張れそうです。

AMUSEの発展、地域での外科医療の維持に少しでも役立つように勤務をさせていただきますので、宜しくお願ひ致します。



製鉄記念室蘭病院 心臓血管外科 角浜 孝行

私は1990年に旭川医科大学（12期）を卒業後、旧第一外科に入局し、心臓血管外科医として修練を積ませていただきました。本来であればAMUSE設立の際に入会すべきところでしたが、2014年に医局の先輩である山本浩史先生（5期）が秋田大学心臓血管外科学講座の教授に就任されたことを機に秋田大学へ異動したため、入会の機会を逸しておりました。

その後、一昨年に北海道へ戻ることとなり、現在は製鉄記念室蘭病院心臓血管外科に勤務しております。同院には若い頃に二度ほど勤務したことがあり、当時お世話になった方々も多く在籍しておられるため、大変懐かしく感じております。また、私が心臓血管外科医として成長させていただいた場所でもあり、今回の赴任を機に、これまでの経験を少しでも還元できればと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



旭川医科大学 外科学講座 東 紗弥
小児外科 (代筆 宮城)

2025年4月より、秋田大学から当科へ赴任されました東 紗弥（あずま さや）先生をご紹介します。東先生は卒後13年目（平成25年卒）の小児外科医であり、この度、私たちの同門の一員となりました。

東先生は北海道のご出身で、札幌南高校を卒業されています。秋田大学時代は剣道部に所属し、日々鍛錬に励まれてきました。その影響もあってか、非常に礼儀正しく、何事にも真面目でガッツ溢れる、現代では稀有なほど「芯の通った」先生です。当科着任後もその手腕を遺憾なく発揮されています。7月には1万人に1人と言われる難病・胆道閉鎖症に対する葛西手術を執刀されたほか、5,000人に1人の疾患であるヒルシュスプルング病の根治術も執刀されました。また、夜間の緊急手術（腸捻転など）にも迅速に対応するなど、まさに縦横無尽の活躍を見せてくれています。

現在は10月より「ジャパンハート」の一員としてカンボジアへ留学されており、現地での医療支援に従事されています。2026年4月には再び旭川医大小児外科へ戻られる予定です。カンボジアで得た貴重な技術と知識を教室に還元していただくとともに、現地との絆を大切にしながら、当科の国際化の一翼を担ってくれるものと確信しております。

皆様、東先生への温かいご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



心臓外科 赤松 秀信

1998年東京都生まれ、二人兄弟の次男として育ちました。昭和大学医学部を卒業後、旭川医科大学外科学講座 心臓大血管外科分野に入局しました。心臓外科を志したきっかけは、手術室で命に向き合う先輩医師の姿を見て「カッコいい」と感じたこと

でした。当初は漠然とした憧れでしたが、学びを重ねる中で、その高度な技術や責任の重さ、患者さんの命に直接向き合う医療の厳しさとやりがいを実感し、この分野を志すようになりました。生まれ育った東京を離れて旭川医科大学に入局し、紙谷教授をはじめ多くの先生方に温かく迎えていただき、新しい環境で医師としての第一歩を踏み出しました。まだ駆け出しの身ではありますが、日々の臨床の中で多くを学びながら、一つひとつの経験を大切に積み重ねていきたいと考えています。信頼される心臓外科医を目指して努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



心臓外科 河原林 佑

専攻医一年目の河原林 佑（かわらばやし たすく）と申します。2023年に秋田大学医学部を卒業後、秋田県内の市中病院で2年間の初期臨床研修を行い、今年度より心臓大血管外科学分野に入局いたしました。出身は千葉県木更津市です。



旭川医科大学への入局を決めた理由は、若手医師が段階的に成長できる教育体制に魅力を感じたためです。病院見学の際、指導医の先生方が若手医師に積極的に手技の機会を与え、熱心に指導されている姿が印象的でした。また、学会発表や論文投稿など学術活動が活発である点にも魅力を感じました。

今後は基本手技の習得に加え、術前・術後管理を含めた総合的な臨床力を身につけ、周囲の先生方や多職種の方々から多くを学びながら成長していきたいと考えています。まだまだ未熟ではありますが、患者さんに信頼される心臓血管外科医を目指し努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

呼吸器外科・乳腺外科 高橋 賢吾

このたび、2025年4月より呼吸器外科・乳腺外科に入局いたしました、医師3年目の高橋賢吾と申します。札幌市出身で、学生時代は合唱部および室内合奏団にて学業そっちのけで音楽活動に勤しんでおりまし

た。初期研修は名寄市立総合病院および旭川医科大学病院にて行いました。今後は外科医として臨床・研究の両面で研鑽を積み、大学および地域医療に貢献できるよう努めてまいります。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



最近家族が増えました。“もんちゃん”と言います。

肝胆膵・移植／消化管外科 **瀧澤 朋紀**

ご挨拶の機会を賜り、誠にありがとうございます。肝胆膵・移植／消化管外科 瀧澤 朋紀と申します。2023年に旭川医科大学を卒業後、旭川医科大学病院、砂川市立病院で初期研修し、入局致しました。各研修先での外科の先生方の頼もしい背中に憧れ、自分も外科医になりたいと志しました。

専攻医として働き始め、日常診療、手術、学会発表、学術活動など日々何かに追われながら駆け抜けた1年間でした。諸先生方のご指導のもとなんとか乗り越えることができましたこと、心より感謝申し上げます。

勉強も手技の鍛錬もまだまだ足りないと痛感する日々ですが、努力を重ね、AMUSE会員の先輩方と肩を並べて働けるような外科医になるため一歩ずつ前に進んでいく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



心臓外科 **宮崎 暉**

この度、旭川医科大学病院心臓外科に入局させていただくことになりました、山梨大学卒業後2年目の宮崎暉と申します。私は大学4年生の頃に心臓外科医にな

りたいと思いました。そこで心臓外科について調べていくうちに紙谷先生を知り、紙谷先生の下で研鑽を積みたと思い初期研修1年目の2月に入局を決意いたしました。まだまだ知らないこと、できないことだらけで多くの先生方にご迷惑をおかけするかと存じますが1日でも早く皆様のお役に立てるよう精進してまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



肝胆膵・移植／消化管外科 **千葉 周**



初めまして。旭川医科大学第46期卒の千葉周と申します。卒業1年目の冬に入局させていただきました。

出身は北斗市で函館ラ・サール中学高等学校を卒業し、その後旭川へ参りました。部活は小学校から

大学まで野球を続けておりました。外科医というものに対して大学生の頃より漠然とした憧れがありました。研修1年目の外科ローテの中で、横尾教授をはじめ多くの先生に熱心に指導・勧誘をしていただき、今後の医者人生を外科医として過ごすことを心に決め、入局を決意いたしました。

旭川医科大学病院、旭川厚生病院で初期研修をし、外科だけでなくそのほかの分野でも能動的に勉強して参りました。3年目から外科医として働く上で、これまでと同様に謙虚な姿勢を忘れずに日々精進、日々勉強して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

肝胆膵・移植／消化管外科 **西田 さと**

はじめまして。札幌東徳洲会病院研修医の西田さとと申します。旭川で生まれ育ち、大学時代は硬式庭球部に所属しておりました。私は学生時代から外科を志望していたわけではありませんでしたが、外科研修を経験した際に、手術に真摯に向き合う先生方の姿や、手術の楽しさに触れ、外科という仕事のやりがいと魅力に惹かれるようになりました。

一方で、自分が本当に外科医としてやっていけるのかという不安もあり、進路をすぐには決めきれずにおりました。しかし、横尾教授をはじめ尊敬する外科医の先生方から温かいご指導と励ましをいただき、また札幌東徳洲会病院で刺激的な外科研修を経験させていただいたこともあり、昨年11月に入局を決意いたしました。

まだまだ未熟ではありますが、将来は周囲から信頼され、患者さんに真摯に向き合える外科医となるよう日々研鑽を重ねてまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

肝胆膵・移植／消化管外科 **石橋 壮涼**

昨年度新たに入会させていただくこととなりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在は研修医1年目として、日々の診療の中で多くのことを学ばせていただいております。まだ経験も浅く、至らぬ点ばかりではございますが、患者さん一人ひとりと向き合

いながら、基本を大切にした診療を心がけております。

日々の業務を通じて、自身の未熟さを実感する場面も多くありますが、その一つ一つを学びの機会と捉え、少しずつ成長していきたいと考えております。今後はさまざまな出会いや経験を通じて視野を広げ、将来に向けた糧として行ければとも考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

血管外科 **川田 栞寧**

私は、2025年3月に旭川医科大学を卒業し、同年4月より手稲溪仁会病院にて初期研修を始めました。16名の同期の中で道産子は私一人であり、様々なバックグラウンドを持つ仲間と囲まれながら、日々多くの刺激を受けて研修に励んでおります。気づけばあっという間に一年が経ち、後輩を迎える立場となり、身の引き締まる思いです。

学生時代には、外科学講座の皆様へ実習やHOPESでの学生セッションでの発表、国内学会への参加などを通じて多くのご指導を賜りました。さらに研修医となってからも、国内外の学会に参加させていただくなど、継続して貴重な経験をさせていただいております。旭川を離れた現在も変わらぬご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

本年度はアメリカでの約1か月の研修も予定しており、将来に向けて着実に力を身につけるとともに、さらなる研鑽を積み、旭川に戻って貢献できるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



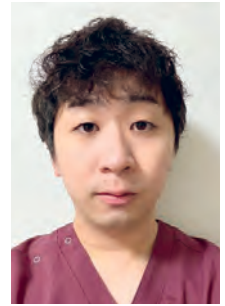
心臓外科 野村 悠起

この度、AMUSEに入会させていただくこととなりました、野村悠起と申します。旭川医科大学を卒業後、現在は札幌東徳洲会病院にて2年間の初期臨床研修を行っております。学生時代に、紙谷教授や潮田先生をはじめとする心臓外科の先生方のもとで実習を経験し、「ぜひこの先生方とともに働き、直接ご指導をいただきたい」と強く感じ、心臓外科への入局を決意いたしました。

初期臨床研修では「命だけは皆平等」の精神のもと、幅広い分野を学びながら、救急疾患に対応できる知識と精神力を身につけていきたいと考えております。3年目以降に大学へ戻らせていただいた際には、患者様や医療スタッフから信頼される心臓外科医を目指し、日々研鑽を重ね、少しでも皆様のお役に立てるよう努力してまいります。

まだまだ未熟者ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

導、学会参加などに積極的に関わっていきたいと考えています。将来は、学会発表や論文執筆にも継続して取り組み、多くの手術経験を積んだうえで、後輩たちを診療科の垣根を越えて育成できる外科医になることが目標です。AMUSEでの学びとつながりを大切にしながら、日々成長していきたいと思っております。また、臨床だけでなく研究活動にも積極的に取り組み、医療の発展に少しでも貢献できるよう努力していきたいと考えております。まだ未熟者ではございますが、皆様から多くのことを学ばせていただきながら、一つ一つ経験を積み重ねていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



呼吸器外科・乳腺外科 田宮 未久

初期臨床研修医2年目の田宮未久と申します。現在は日々の初期研修を通して、幅広い診療科で臨床経験を積みながら学んでおります。

研修を重ねる中で外科の魅力は変わらず、大きなやりがいに溢れていると感じます。手術は患者さんにとって大きな出来事であり、治療そのものだけでなく、不安や思いに寄り添える外科医でありたいと身に染みて感じております。知識・経験ともに不足しており、学ぶべきことばかりですが、AMUSEの一員として諸先生方から多くを学び、成長していきたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

小児外科 菅野 紗希

はじめまして。市立札幌病院研修医1年目の菅野紗希と申します。大学6年の春に小児外科へ入局させていただきました。

出身は札幌市で、札幌南高校を卒業し旭川医科大学へ入学いたしました。中高6年間は吹奏楽に全力を注いでおりましたが、大学入学後は心機一転でスポーツを始めようと思い硬式テニス部に所属しておりました。

大学入学前から小児医療に携わりたいという思いがありましたが、病院実習で外科を回った際の手術見学がとても面白く、外科医に強い憧れを抱きまし



呼吸器外科・乳腺外科 稲尾 匠

このたびAMUSEに入会させていただきました稲尾匠と申します。また呼吸器乳腺外科に所属し、旭川医大病院で初期研修に励んでおります。今後はAMUSEの一員として、診療科の枠を越えた学びの機会を大切に、研修医の立場から勉強会や手技指

た。その後の小児外科での実習で、一人ひとりの患児やそのご家族と信頼関係を築きながら手術や外来を行い子どもたちの人生に寄り添う先生方の姿に強く惹かれ、小児外科への入局を決めました。

初期研修の2年間では、外科だけでなく内科や救急でも多くのことを学び、これから外科医として働いていく上での基盤を作りたいと思っております。一層精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



肝胆膵・移植／消化管外科 澤田 栞緒音

旭川医科大学47期卒、札幌厚生病院研修医1年目の澤田栞緒音と申します。出身地は札幌で、札幌南高校を卒業後、旭川医科大学に入学しました。大学では男子バレーボール部に所属しており、バレーボール中心の学生生活を送っていました。

臨床実習が始まる前までは外科に対して敷居が高い印象をもっておりましたが、実習で手術を見学した際に自分も手術に携わりたいと思うようになり、外科へ入局いたしました。

現在は札幌厚生病院で初期研修中ですが、日々の診療の中で自分の未熟さを痛感し、反省の連続です。残りの研修で少しでも多くのことを学び、自分の理想の外科医に近づけるよう努力していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



心臓大血管外科学分野 藤井 裕美子

2025年度よりAMUSEに賛助会員として入会させていただきました、心臓大血管外科所属の藤井裕美子と申します。2025年2月に本学の病理学講座腫瘍病理分野から現所属に異動して、心筋細胞の増殖制御に関する研究に従事させていただいております。旭川東高校から北海道大学理学部化学科に進学し、これまで主にピロリ菌感染に起因する胃がんとその関連疾患の発症機構の解明を目指した研究を行ってきました。腫瘍病理分野でも肝臓がんの分子腫瘍学的研究に携わっていたため、細胞の増殖を分子レベルで考えるための知識は持ち合わせているのですが、心血管系特有の知識に関しては全くの素人であり、新鮮な気持ちで日々勉強させていただいております。医学部出身ではないため臨床の現場でお仕事をご一緒する機会はないかもしれませんが、今後様々な場面でお世話になることも多いかと存じます。研究をされる先生方をはじめとして、臨床の観点から色々のご指導賜れますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

本号もAMUSE年報をお読みいただき、誠にありがとうございます。節目となるVOL.10をお届けできますのも、日頃よりAMUSEの活動を支えてくださる皆様のお力添えの賜物です。年報作成にあたりましては、短い期限にもかかわらず、ご多忙の各講座の先生方ならびに法人会員各施設の皆様より快くご寄稿を賜り、心より御礼申し上げます。

本号では、運営体制・事業報告・学術活動の取り組みに加え、若手医師の自己紹介や法人会員紹介など、多様な立場からの“いま”を誌面にまとめました。ご執筆いただいた文章はいずれも示唆に富み、AMUSEが大切にしてきた「つながり」と「次世代育成」の輪郭を、改めて実感させてくれる内容となっております。

新年度が始まり、各施設とも慌ただしい日々が続く時期かと存じますが、対面で語り合う機会も少しずつ増えてまいりました。環境が大きく変化する中でも、学生・研修医を含む若者が外科の門を叩き、挑戦を続けられる土壌づくりに、AMUSEが引き続き一助となることを願っております。

本号発刊に際し、AMUSE理事・幹事の皆様、各講座および関連病院の先生方、秘書の皆様、AMUSE事務局の皆様の多大なるご協力に深く感謝申し上げます。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げ、編集後記とさせていただきます。

(文責：安田 俊輔)

AMUSE年報 VOL.10

発行

2026年 5月 1日

編集

一般社団法人 AMUSE

(旭川医科大学外科学講座教育支援機構)

印刷

植平印刷株式会社
